「自主自律の学び」を研究・支援する
学修・教育開発センター

東京家政大学
東京家政大学短期大学部

CREDレター 【No.5】

Center for Research and Educational Development（CRED） ※CredibilityのCRED「クレッド」とご記憶ください

◆「学び」を学ぶ ～『スタートアップ エクササイズ』の活用～

英語コミュニケーション学科 新井 哲男

アメリカの作家アーネスト・ヘミングウェイの作品「キリマンジャロの雪」で、死を前にした主人公ハリーは、妻に「好奇心だけは、今まで決して失ったことはない」（Charles Scribner's Sons版p.25）と言う。かつては将来を嘱望された作家であった主人公が、結婚後、妻がもたらした豊かな富により安逸な生活に耽り、作家としての才能をすり減らしてしまった結果の死であった。作品を世に残すことはできなかったが、作家としての魂である「好奇心」だけは失ったことはないと言うのだろうか。読者には気になる言葉である。しかし、考えてみれば、作家だけではない。人は、「好奇心」をなくして、本当に生きていると言えるのだろうか。「好奇心」を持ち、自分の能力を十分に開花させたいと願い、生涯学び続けるのではないだろうか。種々の思いに駆られる作品である。

『スタートアップ エクササイズ』には、学びのヒントがたくさん記されている。専門書を読むときには、「附箋をつけながら、あるいは線を引きながら読むこと…」（「3-2-2専門書の読み方、向き合い方」p.87）とある。上に紹介した「好奇心だけは…」の文は、まさに私が附箋を貼った文である。

「4-1-3東京家政大生に薦める100冊の本」では、「2014Plus」（p.105）に興味を持ち、図書館に行き、『三陸海岸大津波』（吉村昭著 文春文庫）を手にとる。あの大地震から4年がたつ。しかし、この書はその41年前に書かれた書である。それにもかかわらず記述が生々しく、生き生きとしている。村の古老は、「津波は、時世が変ってもなくならない、必ず今後も襲ってくる。しかし、今の人たちは色々な方法で十分警戒しているから、死ぬ人はめったにないと思う」（同書p.178）と語っている。不幸にして、この予言は外れ、読者は改めて自然の力の大きさを感じさせられるが、著者は「津波の歴史を知ったことによって一層三陸海岸に対する愛着を深めている」（同上p.178）の言葉をここに置いている。自然への畏敬と人間への愛情にあふれた書である。

『スタートアップ エクササイズ』も附箋を貼りながら、あるいは線を引きながら読むとよい。独自の読みが可能となる。他の人と読み比べるとより深い理解へとつながる。「はじめに」を含め全部で5章、節ごとに丁寧に読めば13節、大学での学びの教科書となる。

まず、各章の中扉を開いてみよう。東京家政大学の礎を築かれた渡邊辰五郎先生と、戦後、現在の東京家政大学

を築かれた青木誠四郎先生の言葉が記され、両先生の生きた声が響いてくる。頁の下隅に小さく記された彩色の由来からは、製作者の熱い思いが伝わってくる。

頁を開くと大学や周辺地区の歴史がつづられている。おりしも３月14日、北陸新幹線が開通し、かつては加賀百万石と呼ばれた地が近くなった。東大の赤門は、旧加賀藩上屋敷の御門として知られるが、本学図書館の前付近には、加賀藩下屋敷の黒塗の御門が建てられていた（「板橋と加賀：十条界隈小史」p.16）という。大学の住所も板橋区加賀である。

『スタートアップ エクササイズ』は、学びのガイドである。大学での学びには、「より能動的・主体的に学ぶことが求められる」（「1-2-1能動的な学びへの転換」p.34）、「大学での4年間は、自主自律の生き方に近づくために経験を積む時間だと言っても過言ではありません」（「1-2-2自主的・自律的な学生生活のすすめ」p.36）の言葉が並ぶ。しかし、学ぶためには、心身ともに健康でなければならない。「生き方がしっかりしていない方はまず健康ではありません。身体をいくら鍛えても健康にはなりません。健康に自信がない方は、まず生き方をしっかりさせる必要があります」（「2-1-1食と健康 ーバランスのとれた食事ー」p.44）と記され、十分な睡眠時間の確保と一汁三菜を本膳とするバランスのとれた食事が推奨される。また、ストレスを抱えた時に、それに対処する方法や良好な友人関係づくりのヒント、悩みに負けない自分づくりのヒントも記されている。

大学での授業については、「大学では確かにすでに明らかにされた知識・技能を伝えることも行われていますが、それにもましてそれらの知識・技能を基礎として教員と学生がともに、『知的、道徳的及び応用的能力を展開させる』こと、つまり、新たな知の世界を拓くことが求められている」（「3-1-1大学における授業とは？」p.64）と記され、そのためのノートづくりやレポートを書く技術、口頭発表の仕方についてのヒントも与えられている。特に、大学でのノートは「授業の内容を踏まえて自分なりの考えや技能を構築していくためである」（「3-2-1大学での学びを深めるノートづくり」p.84）、「レポートを書く技術とは言い換えると『書くコミュニケーション（伝達）技術』です」（「3-4-1レポートの書き方」p.94）、「発表者は『発表をした甲斐（意味）があった』と思え…発表を聴いた人も『発表を聴いた甲斐（値打ち）があった』と感じられるようでなければ」徒労であったことになる（「3-4-2口頭発表の方法」p.96）と記され、そのための準備について、具体的に、詳しく説明されている。

しかし同時に、「大学においては教員が求める課題以外にもみなさんが自主的に取り組む学修を必要としている」（「3-1-1大学における授業とは？」p.66）とも記され、第4章では、大学内外での数多くの自主的学びへの道が紹介され、その道は海外へも通じている。3人の先生方が記された（「4-2-8グローバルに生きる【1】～【3】」pp.134-39）は、各先生方の体験に基づく意義深いエピソードにあふれ、グローバル化時代に生きる私たちに大いなる示唆を与えてくれる。

大学での学びで重要なことは「学び方を学ぶ」（「4-1-4放送大学や他大学での学習」p.108）ことであり、その学びは生涯続いていく。「大学時代に、自分の将来の生き方や働き方について考えを固めておくことはとても重要です」（「1-1-1女性と社会ー働く女性からの現状報告とアドバイスー」p.26）「女性の意識も、社会の意識も、女性が仕事を持ち社会で活躍し続ける方向に動いており、『男女共同参画社会』が目指されています」（同p.27）とも記され、大学生の間に、自らの人生プランを設計することが望まれている。第1章1節「ライフプランを設計する」（pp.26-33）及び第4章2節「進路選択」（pp.120-39）には、そのためのヒントが、細かく、丁寧に記されている。大いに活用してほしい。

2015年３月発行　編集＆発行：東京家政大学　東京家政大学短期大学部　学修・教育開発センター
DTP：東京家政大学　ヒューマンライフ支援センター　坂本理恵
〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1　TEL：03-3961-0284　E-mail：cred@tokyo-kasei.ac.jp